

# IOS を応用した治療導入後の歯冠修復の 1 例

水野敦之

Atsushi Mizuno



## I. 緒言

近年デジタルによる歯科診療が益々進歩している。昨今患者のニーズも変化し、より具体的な治療計画を求められることがある。今回 IOS を使用し、治療介入前にデジタルによるプロビジョナルレストレーションを作成・提示し、カウンセリングからの CAD/CAM を用いたジルコニア歯冠 修復をおこなったのでここに報告する。

## II. 症例の概要

44 歳女性主婦。主訴 上顎前歯部の審美障害。矯正治療が終了し歯肉と補綴装置の間に隙間があるため 11, 21, 12, 22(ULIUL2URIUR2)を CAD/CAM を応用したジルコニア歯冠修復をすることとした。治療に先立ち、本人の希望により PC 上での確認と 3D プリンターによるモックアップ を作製した。方法 IOS(MEDIT社i-500)による口腔内スキャンとデジタルカメラにて口腔内写真(正面観)を撮影。3D 編集ソフト(Meshmixer と Blue Sky Plan®)を用い模型編集と口腔内写真との重ね合わせを行った。PC 上で 3D によるモックアップ模型を複数作製し、チェアサイド で患者の希望する形態とすり合わせを何度も行った。その後 3D プリンターで模型をプリントアウトし本人の気に入ったものをプロビジョナルレストレーションとして 3D プリンター材料 (HARZ Labs DENTAL SAND A1-A2)を使用し作製した。本人の希望もありメタルコアをファイバーポスト併用レジン築造体(GC UNIFIL CORE EM®)にすべて置き換え、IOS による口腔内印象を行い CAD/CAM によるジルコニアクラウン(接着:Panavia V5®(クラレノリタケ)を装着した。

## III. 結果と考察

より具体的に患者へ治療計画を示すことができ満足度を高めることができた。現在装着しているプロビジョナルレストレーションを外すことなく、またフリーソフトを使用し院外ラボに依頼することなく治療導入を終えたため患者への侵襲や経済的負担を従来の方法よりも少なくすることができた。将来歯科技工士が減少することが予測されるため、院内で安価かつ質の高いコンサルテーションを行うことがこれからの歯科医院の道筋ではないだろうか。